

皮膚トラブル管理への 写真活用の開始と その副次効果

世田谷区社会福祉事業団
特別養護老人ホーム 芦花ホーム
姿勢褥瘡排泄委員会
発表者：川手・岡崎

芦花ホームの紹介

- ▶ 開設年月日 1995年5月1日
- ▶ 世田谷区社会福祉事業団 芦花ホーム
- ▶ 入所定員103名 ショートステイ21名
- ▶ 最期までその人らしく過ごせるケアの実践
- ▶ エンゼルケアの充実
- ▶ ACP（人生会議）の理解
- ▶ 本人主体、ご家族や近親者による意思決定の支援と意向の尊重
- ▶ 人生観や価値観、希望に沿ったケア



目次

- 導入の経緯
- マニュアルの改正
 - チャットの活用
 - 手順書の作成
- 使用例
 - ①皮膚トラブル 発生～終了までの状態比較
 - ②多職種との情報共有
- 導入による主な効果
- 導入による副次効果

● 導入の経緯

令和4年度第1回委員会にて
「皮膚トラブルの記録・入力基準が分かりづらく
管理ができていないのでは？」

➡ マニュアルの見直しを検討

＜問題点＞

そもそも評価がきちんとできているのか？



皮膚トラブルの評価方法

＜従来＞ 発見時

- ①部位・状態
- ②処置内容
- ③次回評価日
- ④推定される要因
- ⑤対応策



記録を残し
評価日にアセスメントを実施
処置継続or処置終了を決定

「文章」や「記憶」による
情報の伝達、申し送りとなっている

問題点

- ▶ 文章による申し送りのため
情報の伝達が不正確
- ▶ 発見、最初に評価した職員と
次回評価する職員が同一ではないため
正確なアセスメントができていない

正確に情報を伝達するためには
どうすればいいのか？

可視化できる方法に変更できないか？



タブレットによる
写真撮影の導入と

ケース記録での評価を検討⁷

● マニュアルの改正

▶ チャットの活用

多職種で委員会が構成されている為
出勤日や勤務時間がバラバラ

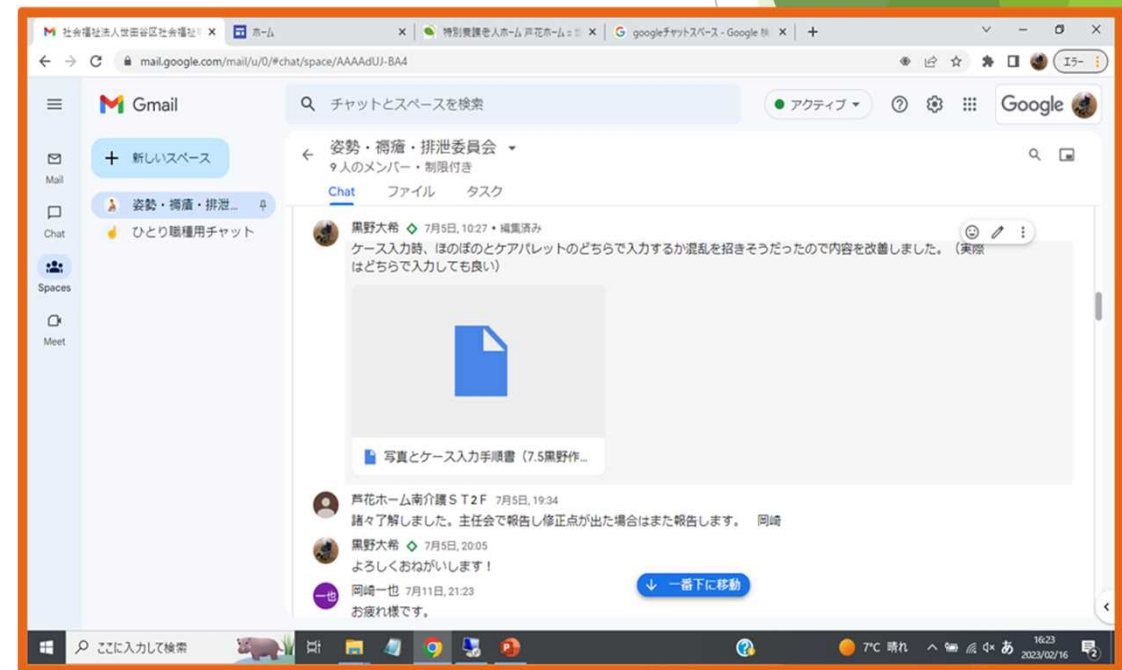


意見交換や情報共有を
委員全員に図る事が困難

チャットルーム「Googleスペース」を 各職種が使用するPCで設定

「出勤時」に確認

委員全員での情報共有が可能となり
確認が円滑に行うことができる



マニュアル作成スピードが格段に向上

■ 手順書の作成

- ◆ 皮膚トラブルの状態を記録に残す



- ◆ 「写真を撮影」
- ◆ 「撮ったデータをPCに保存」
- ◆ 皮膚トラブルの状態を記録に残す

※新しい手順が増えた

課題

- ◆ 新たな動作が増えることへの**抵抗感**の払拭
- ◆ PCに**苦手意識**を持つ職員へのアプローチ
- ◆ 写真撮影手順の**定着**

解決方法

マニュアルとは別に

「写真撮影データの取り込み」に関する手順書を作成



**「この手順書を見れば
だれでも簡単に
データが取り込めるぞ！」**

皮膚状態 写真撮影/印刷マニュアル

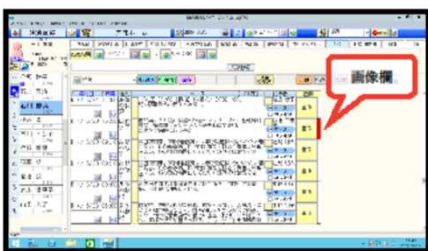
「ケアバレット」で撮影

- ① ケース記録画面を表示する。
- ② ケース本文を入力する。(裏面参照)
(PCで入力済みのケースに後から追加でも可)
- ③ 画像欄をダブルクリック。
(本文を保存するか確認されるので、はい)
- ④ 「撮影」をクリック。
- ⑤ カメラが起動するので撮影する。
(または「選択」から撮影済みの写真を選ぶ)
- ⑥ 「確定」をクリック。
- ⑦ 画像マークが表示されたら記録成功。保存をクリック。

(iPadの「写真」アプリに写真が残ってしまうので、写真撮影から3か月経過したものを削除すること！)
※画像の削除タイミングは今後変更となる可能性あり
※ **不特定多数の目に触れる可能性あり。ご利用者様の同意を得て撮影に臨み、プライバシーに配慮すること！**
(必要以上に顔を写さない、胸や股間をタオルで隠す等)

「はのぼ」で閲覧

- ① ケース記録画面を表示する。
- ② 画像欄をクリック (写真が登録されていると赤色に強調されます)。
- ③ 表示された写真をダブルクリック。
- ④ 写真が拡大表示される。



画像欄



表示された写真

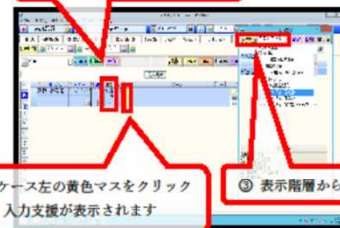
皮膚トラブル入力手順

<初回発見時>

- ① ケース入力画面で利用者を選択して行追加
(原則 PC 入力の方針。慣れたらケアバレットで入力も可)
- ② 種別を「皮膚トラブル」に変更
- ③ 入力支援の表示階層「皮膚トラブル (初回)」を選択
- ④ 詳細表示に沿って入力
- ⑤ ケアバレットで撮影した写真をケースに登録
(裏面：写真撮影マニュアル参照)

※ PC 版のはのぼで入力する場合

- ① 種別「皮膚トラブル」を選択



- ② ケース左の黄色マスをクリック
→ 入力支援が表示されます

- ③ 表示階層から選択

<入浴日>

- ① ケースの表示階層「皮膚トラブル (継続)」を選択
- ② 詳細表示に沿って入力

※ ケアバレットで入力する場合

- ① 新規登録 → ケース → 利用者を選択
本文をクリックすると下の画面が表示

- ② 種別「皮膚トラブル」を選択

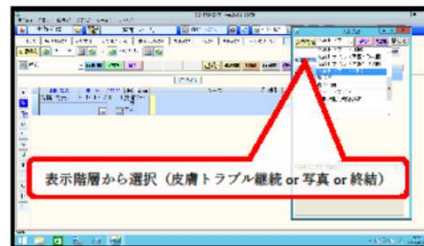


- ③ 分類から皮膚トラブル (〇〇) を選択
(ケアバレットの分類=はのぼの表示階層)

<看護評価日>

- 表示階層「皮膚トラブル (継続)」を選択
詳細表示に沿って入力

※ はのぼで入力する場合



- 表示階層から選択 (皮膚トラブル継続 or 写真 or 終結)

→ 悪化していた場合は経過の比較のため
表示階層「皮膚トラブル (写真)」を選択
ケアバレットで撮影した写真をケースに登録

プロト保護で十分な程度まで治療

<処置終了>

ケースにて表示階層「皮膚トラブル (終結)」
を選択

ポイント

- ▶ 画像メイン
- ▶ A4サイズ両面印刷1枚にまとめる
- ▶ ラミネート加工
(入浴時に発見、状態確認することが多い点から)

●職員への周知対応

- ▶フロアミーティングでの情報共有
- ▶委員が同フロア職員へ指導
→手順に習熟した職員が、別の職員へ伝達指導
- ▶今後の展望：見やすい写真の撮影方法や、皮膚状態を比較する時のポイントについて勉強会を開催

● 使用例①

皮膚トラブル発見～終了までの状態比較

＜発見時～評価終了まで＞

- ▶ 時間経過に伴う状態変化が誰が見ても比較しやすくなった

＜悪化時＞

原因は他にあるのか？

他に対処策を練る必要があるのか？

- ▶ 評価が正確に実施できるようになった



発見時



3cmほどの表皮剥離を伴う発赤。さらに発赤の中心に1円玉サイズの黒色潰瘍あり



評価時（1週間後）



薄皮が再生し、表皮剥離が縮小。発赤は残存。表面の黒色潰瘍が剥がれ、深層の黄色潰瘍が露出している

● 使用例②

多職種との情報共有

「発疹」「浮腫」

病気が原因となるものや、骨折等
皮膚トラブル以外の原因が考えられる

➔ 受診の必要性あり？

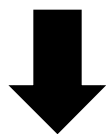
写真データを残すことで状態の確認、変化の可視化が可能

- ▶ 看護、PT、医師等
多職種間での情報共有も円滑

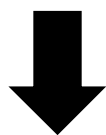
異常所見例



最初は皮膚トラブルの可能性として申し送られる



他部署へ写真情報を共有



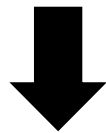
皮膚変色と腫脹が見られるとの意見から受診し、陳旧性の偽関節の炎症と診断される。

異常所見例



● 導入による主な効果

写真撮影とケース記録との連携



- ▶ 時系列に沿った正確な状態把握
- ▶ 記憶に依存しない申し送り
- ▶ 治療効果の判断

● 導入による副次効果

- ポジショニング、シーティング表の作成
- 利用者の状態変化の共有

状況、状態変化を具言化しづらい場合

例) トイレで血尿確認、流れる前に撮影し看護に報告

皮膚トラブル以外での写真活用に発展

データを残すことにより

他者との情報共有を図ることができる

- ▶ 写真データを残すことの**利便性**を実感する
職員の増加
- ▶ 操作に対する**抵抗感の払拭**



「情報共有ツール」としてのポジションを確立



ご清聴
ありがとうございました！

世田谷区社会福祉事業団
マスコットキャラクター

ジャジー

個人情報・プライバシーに関する配慮

- ▶ 撮影には外部への持ち出しを禁止しているタブレットを使用
- ▶ 個人を特定できないように、顔が隠れるアングルでの撮影
- ▶ 撮影したデータは定期的に削除
- ▶ 対象となる部位以外はタオルで隠す等配慮
- ▶ 対象者の同意が得られない場合は撮影しない

皮膚トラブル発生件数と記録数の比較

令和4年2月～7月（写真活用前）

- ▶ 皮膚トラブル発生件数59件 ケース記録数334（平均5.7記録／件）
- ▶ 剥離件数26件（トラブル全体の44%） 剥離治癒までの平均日数12日

令和4年8月～令和5年1月（写真活用以降）

- ▶ 皮膚トラブル発生件数**74件** ケース記録数632（平均8.5記録／件）
- ▶ 剥離件数28件（トラブル全体の**37%**） 剥離治癒までの平均日数14日

- ▶ 皮膚トラブルの発生件数・記録数は増加（見落としの改善）
- ▶ 表皮剥離の発生割合の低下（申し送りの質の向上）